紀の川洪水ハザードマップ

Kinokawa River Flood Hazard Map　紀之川洪水风险图　기노카와강 홍수 재해 지도

早めの避難を心がけましょう！

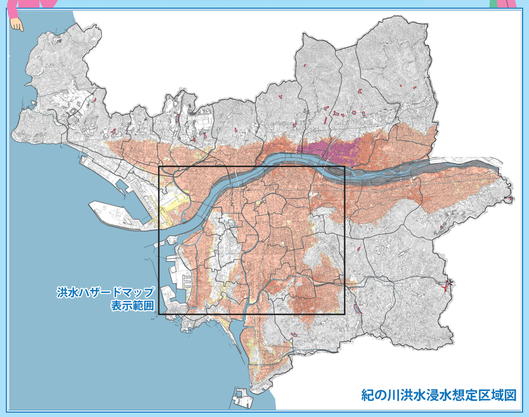
Please evacuate in an early manner!
请注意尽早避险！
조기 대피를 명심하세요!

本町・城北・広瀬・雄湊・大新・新南・吹上・砂山・高松・宮・宮北・中之島・芦原・宮前・三田・岡崎・今福

Honmachi, Johoku, Hirose, Onominato, Daishin, Shinnan, Fukiage, Sunayama, Takamatsu, Miya, Miyakita, Nakanoshima, Ashihara, Miyamae, Santa, Okazaki, Imafuku

本町·城北·广濑·雄湊·大新·新南·吹上·砂山·高松·宫·宫北·中之岛·芦原·宫前·三田·冈崎·今福

혼마치·조호쿠·히로세·오노미나토·다이신·신난·후키아게·스나야마·다카마쓰·미야·미야키타·나카노시마·아시하라·미야마에·산타·오카자키·이마후쿠



紀の川洪水浸水想定区域図

和歌山市

1. 風水害のリスクを知る

Knowing the risks of storm and flood damage
了解风灾和水灾的风险
풍수해 리스크에 대해 알아두기

1-1. 過去の浸水災害

近年異常気象により、各地で大雨が発生しています。平成30年（2018年）7月豪雨では、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、市では、436世帯の家屋被害があるなど、甚大な被害が発生しました。

家屋被害（暫定）	世帯数
床上浸水	126
床下浸水	306
全壊	3
半壊	1
計	436

出典：報道資料
（平成30年（2018年）7月6日 豪雨）8月7日9時40分現在

1-2. 大雨がもたらす現象

積乱雲の発達

「大気の状態が不安定」な時（上空に冷たい空気、地上に温かい空気の層がある時）に発生します。

積乱雲が近づくサイン

まもなく、激しい雨と雷がやってきます。
河川や低い場所からすぐに離れましょう。

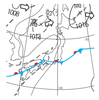
台風の接近

台風は巨大な空気の渦巻きになっており、反時計回りに強い風が吹き込んでいます。そのため、進行方向に向かって右の半円では、台風自身の風と台風を移動させる周りの風が同じ方向に吹くため風が強くなります。

平成30年（2018年）台風第21号の経路図
出典：気象庁、台風経路図

前線の停滞

日本付近では6月頃に梅雨前線、9月頃に秋雨前線が停滞します。



大雨によって発生する災害

2. 大雨時のとるべき行動

Actions to take during heavy rainfall
大雨时应该采取的行动
호우 시 취할 행동

2-1. 風水害時に役立つ情報

大雨時には、テレビ、ラジオ、メール配信などにより様々な防災情報が発表され、インターネットでも様々な情報が入手できます。
また、市では防災行政無線で警戒レベルや避難情報を伝達します。

テレビ

テレビ和歌山（5ch）のdボタンを押し「あんぜん情報24時」を選択してください。

ラジオ

NHK 和歌山放送局：666ｋHz
和歌山放送：1431ｋHz
エフエム和歌山：87.7MHz

防災無線

緊急時に、市内各所に設置している防災行政無線を通して市民の皆さんへ緊急・災害情報を届けます。

電話

和歌山市防災情報電話
防災行政無線で気象警報の発表や避難勧告等の発令を放送した場合、和歌山市の防災情報を電話で聞くことができます。
0180-997-199

インターネットなど

和歌山市ホームページ
http://www.city.wakayama.wakayama.jp/

和歌山県防災わかやまホームページ
http://bousai-portal.pref.wakayama.lg.jp/

和歌山河川国道事務所
紀の川の情報がリアルタイムで確認できます。
https://www.kkr.mlit.go.jp/wakayama/

和歌山市防災情報メール
防災行政無線の放送内容がわかりにくいときでも、事前に登録しておくと放送内容がメールで配信され、確認することができます。
登録方法　下記アドレスまで空メールをお送りください。
touroku@bosai-mail.city.wakayama.wakayama.jp

気象庁
http://www.jma.go.jp/jma/

和歌山地方気象台
http://www.jma-net.go.jp/wakayama/

防災わかやまメール配信サービス（和歌山県）
自分が必要な気象情報などを事前に選択し登録しておくと、選択した情報がメールで配信され、確認することが出来ます。
登録方法　下記アドレスまで空メールをお送りください。
regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp

2-2. 風水害時にとるべき行動

大雨時には、テレビ、ラジオ、メール配信などにより様々な防災情報が発表され、インターネットでも様々な情報が入手できます。
また、市では防災行政無線で警戒レベルや避難情報を伝達します。

危険大

警戒レベル	発表者 レベル1,2：気象庁 レベル3～5：市	警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3	警戒レベル4	警戒レベル5
避難情報等	発表者 レベル1,2：気象庁 レベル3～5：市	早期注意情報	大雨注意報 洪水注意報	避難準備・高齢者等避難開始	避難勧告	避難指示（緊急）／災害発生情報
防災気象情報	発表者 国、気象庁、県	これらの情報は住民が自主的に避難行動をとるために参考となる情報です。	警戒レベル3相当情報 大雨警報（土砂災害）洪水警報 氾濫警戒情報	警戒レベル4相当情報 土砂災害警戒情報 氾濫危険情報		警戒レベル5相当情報 大雨特別警報等（数十年に一度の大雨）氾濫発生情報
市民の皆さんのとるべき行動		災害への心構えを高めましょう。	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	高齢者等避難開始！ 避難に時間がかかる高齢の方や障害のある方、乳幼児などとその支援者は避難をしましょう。その他の方は、避難の準備をしましょう。	全員すぐに避難する！避難！ 速やかに避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	直ちに命を守る行動をとる！ すでに災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。

「警戒レベル相当情報」が発表されても、同時に同じレベルの「警戒レベル」が発令されるとは限りません。
和歌山市では、様々な気象情報をもとに、天候の推移によっては「警戒レベル3、4、5」のいずれかの避難情報を発表する可能性があります。自らの命は自ら守る意識を持って避難等に備えてください。

2-3. 河川の水位

最新の河川水位情報を入手し、以下の値を参考に避難に備えましょう。

河川名	水位	水防団待機水位（m）	氾濫注意水位（m）	避難判断水位（m）	氾濫危険水位（m）
和田川	広見橋	1.80	2.00	2.20	2.70
亀の川	大師橋	1.20	1.50	1.80	2.10
	羽鳥橋	1.60	2.00	2.20	2.60
大門川	伊勢橋	1.20	1.70	—	—
	鳴神橋	2.50	3.00	—	—
堤　川	加　太	1.00	1.50	—	—
土入川	報国橋	1.70	2.20	—	—
鳴滝川	鳴滝橋	1.80	2.20	—	—
千手川	観音橋	1.50	2.00	—	—
紀の川	船　戸	4.00	5.00	6.80	7.00

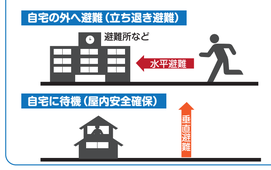
※1の河川は水位周知河川です。
※2の河川は洪水予報河川です。

市内の河川氾濫の注意点

和歌山市内の雨により、紀の川の水位上昇と関係なく、市内を流れる河川の水位が上昇します。
そのため、紀の川の氾濫に備え避難する際は、市内を流れる河川の増水・氾濫への注意も必要です。

2-4. 適切な避難行動

避難行動には、避難所などへ避難する**「立ち退き避難（水平避難）」**と、自宅など建物内の安全な場所で退避する**「屋内安全確保（垂直避難）」**があります。



●浸水が始まる前に避難を！
浸水が始まると、水深が浅くても流れの速さによっては足をすくわれます。また、側溝やマンホール、水路などが確認できず転落するおそれがあります。

●避難判断は自分で！
気象情報や避難情報などの防災情報をもとに、自主的避難を心がけましょう。

●移動手段は徒歩で！
車は故障・洗浦に巻き込まれるおそれがあります。

わが家の防災メモ

Our home's disaster prevention memo
自家的防灾笔记
우리 집 방재 메모

わが家の避難先（親類宅・避難所など）	家族がはなればなれになったときの集合場所

家族の名前	血液型	電話番号（会社・学校・携帯電話）	住　所

災害に関する連絡先

緊急時の通報	消防　119	警察　110

関係機関		電話番号
和歌山市役所		432-0001
避難所について（和歌山市総合防災課）		435-1199
緊急搬送先の問い合わせ（和歌山市消防局）		422-0119
火事などの災害に関する情報案内（和歌山市消防局）		433-4747
和歌山県庁		432-4111
和歌山県救急医療情報センター		426-1199
河川	国土交通省和歌山河川国道事務所	424-2471
	和歌山県海草振興局建設部管理保全課	423-5952
	和歌山市河川港湾課	435-1090

ライフライン		電話番号
水道	和歌山市企業局	435-1131 435-1313（夜間）
道路	国土交通省和歌山河川国道事務所	424-2471
	和歌山県海草振興局建設部管理保全課	423-5952
	和歌山市道路管理課	435-1088
電気	関西電力株式会社	0800-777-3081
ガス	都市ガス・大阪ガス株式会社	0120-3-19424
電話	西日本電信電話株式会社	113

災害用伝言ダイヤル

安否確認方法　災害用伝言ダイヤル171は、大規模な災害が発生した時の「声の伝言板」です。伝言の録音・再生は、一般電話、公衆電話、携帯電話、PHS（一部通信事業者を除く）から行えます。

伝言を録音する場合：171 → 1 → （○○○）□□□-□□□□ → 伝言を吹き込む
伝言を再生する場合：171 → 2 → （○○○）□□□-□□□□ → 伝言を聞く

市のハザードマップの作成状況

市では、市民の皆さんに自分の住む地域の災害に対する危険度を知っていただくとともに、災害時に自ら避難活動を行うために必要な情報を掲載した各種ハザードマップを作成し、公表しています。

防災マップ（地震・津波、風水害）	平成26年3月作成
内水ハザードマップ	平成28年3月作成
土砂災害ハザードマップ	平成30年3月作成

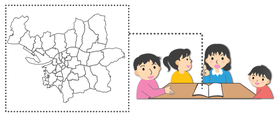
【発行】都市建設局　道路河川部　河川港湾課
〒640-8511　和歌山市七番丁23番地　TEL　073-435-1090
令和2年3月作成

3. わが家の避難マップを作りましょう

Creating a home evacuation map
制作自家的避险地图
우리 집 대피 지도를 만들어 보세요

3-1. 洪水ハザードマップで避難経路を確認しましょう

① 洪水ハザードマップで、あなたの家を確認しましょう。
② 自宅周辺が浸水する想定にあるか、程度を確認しましょう。
③ 身の安全を確保できる避難所を確認し、あなたの家から安全に避難できるコースを考えましょう。



3-2. 実際に避難経路を歩いてみましょう

④ 家族で避難先までのコースを歩いてみましょう。
⑤ コースの途中で危険な場所があればチェックし、安全で避難しやすい経路を調べ、所要時間を確認しましょう。

避難ルートのチェックポイント

□家族は、どこへ避難すべきか？
□川や水路など、大雨の際に危険な箇所はないか？
□坂道や階段などの歩きにくい箇所はないか？
□夜間での避難を想定し、街灯などはあるか？
□自宅から避難先までの時間はどの程度か？
□「最短ルート」、「広い道沿いを通るルート」など複数のルートはあるか？

3-3. わが家の避難マップを作りましょう

⑥ 避難ルートを歩いたら、記入例を参考に結果を地図にまとめて、わが家の避難マップを作りましょう。

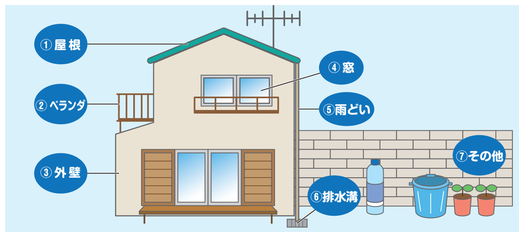
危険な場所には「×」を、注意が必要な場所には「△」を付けましょう。また、ふせんなどで、コメントを書き入れて分かりやすくしましょう。

4. 災害に備える

Preparing for disasters
为灾害做准备
재해에 대비하기

4-1. 台風や大雨に備える

台風や大雨は、ある程度事前に備えができる災害です。台風などの接近前から出来る準備はしっかり整え、危険から身を守りましょう。



①屋根
□アンテナは不安定ではないか。
□トタンはめくれていないか。
□瓦のひび・割れ・はがれはないか。

②ベランダ
□植木鉢や物干しざおなど、落下や飛散の危険のあるものはないか。

③外壁
□壁に亀裂はないか。

④窓
□窓枠のがたつきはないか。
□雨戸にがたつきはないか。

⑤雨どい
□雨どいに落ち葉などは詰まっていないか。
□継ぎ目のはずれや塗装のはがれ、腐りはないか。

⑥排水溝
□排水溝にごみや土砂は詰まっていないか。

⑦その他
□商店などでは看板のぐらつきはないか。
□ごみ箱や植木鉢などは室内に入れるか、飛ばないように固定しているか。
□庭木には添え木をしているか。
□ブロック塀はくずれそうにないか。
□プロパンガスのボンベは鎖でしっかり固定しているか。

いざという時に家庭でできる浸水への対策方法を知っておきましょう

ごみ袋による簡易水のう
ごみ袋を二重にし半分程度水を入れて、ダンボール箱に入れ連結します。

ポリタンクとレジャーシート
ポリタンクに水を入れて、レジャーシートで巻き込み連結します。

プランターとレジャーシート
土を入れたプランターを、レジャーシートで巻き込み使用します。

4-2. 非常持出品、非常備蓄品

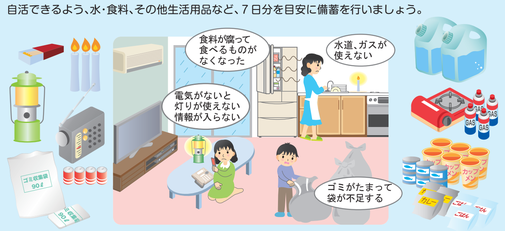
非常持出品

災害時に避難する際に用意するもの、普段から災害時に備え、非常持出品を検討し下の表に書き込んでおきましょう。

食料関係	救急・安全関係	貴重品	他
□（例：飲料水）	□（例：懐中電灯）	□（例：現金）	□（例：携帯ラジオ、電池）
□	□	□	□
□	□	□	□
□	□	□	□
□	□	□	□

非常備蓄品　いざという時を想像し、何が必要か考えてみましょう。

水害時においては、浸水被害などによってライフラインが使えなくなったり、垂直避難をした場合、長時間屋内から出られないことなどが想定されます。いざという時に備えて、災害が発生後、数日間は自活できるよう、水・食料、その他生活用品など、7日分を目安に備蓄を行いましょう。



4-3. 自主防災活動

災害はいつ発生するかわかりません。災害に備えるためには地域での助け合い「共助」を強化する必要があります。「自分たちのまちは自分たちで守る」という理念のもと、防災訓練など、地域の防災活動に積極的に取り組みましょう。

4-4. 災害時要援護者登録制度について

市では、高齢者及び障害者などの要配慮者のうち、災害発生時、避難支援を特に必要とする方を対象とした「災害時要援護者名簿」を作成しています。その内、名簿提供に同意が得られた方の名簿を平常時から地域の支援者に提供し、共助による取り組みを進めています。